

## 保育所でのウ蝕予防に関する母親の行動変容について

○宮川耀子

沖縄県宮古福祉保健所健康推進課

【目的】当福祉保健所管内は宮古島を中心とした人口5万5千余人の島嶼地域である。当福祉保健所管内の平成13年度3歳児のウ蝕有病者率は66.8%であり、県平均の53.3%よりも悪い状況にある。今回、調査の対象となった地区は当管内においてもさらにウ蝕有病者率が90.5%と悪い状況にある地域の公立保育所である。平成12年度より“ムシ歯ゼロを目指そう”と行政、母子推進員、地元の歯科関係者、保護者のネットワークの下に、保育所でのフッ素塗布事業が開始された。この事業を実施することで、保護者、特に母親のウ蝕予防に関して行動の変容が認められたかをアンケート調査から検討した。

【方法】平成12年度は保護者118人を対象に、平成14年度は保護者86人を対象にそれぞれアンケート調査を実施した。調査項目は口の健康に関する関心度、仕上げ磨きの有無、歯磨剤の使用の有無、飲み物（ジュース、スポーツドリンク等）の摂取、フッ素塗布経験の有無などの13項目について調査した。

結果：「お口の健康に関心が強いですか」との問いに平成12年度は80.5%、平成14年度は、87.2%が「はい」と答えており関心度が高まっている。また、「生活リズムは決まっていますか」との問いに平成12年度は77%、平成14年度は80%が「はい」と答えており、生活リズムについてはあまり変化は見られない。「仕上げ磨きをしていますか」との問いに平成12年度は33%、平成14年度は42%が「毎日」と答えており、行動に変化が見られる。「おやつ回数」については「3回」と答えた保護者は平成12年度が28%、平成14年度は20.9%と減少しており、変化が見られる。「おやつを食べながら遊びますか」との問いに平成12年度は55%、平成14年度は59%が「はい」と答えており、あまり変化は見られない。